



ちばりは ニュース

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

—私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

2016年2月 発行 第23号

千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
 千葉市緑区誉田町1-45-2
 TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
 ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

始動！C-RAT

～災害に負けないために、リハビリテーションが出来ること～

東日本大震災の発生から間もなく5年を迎えます。未曾有の大災害により、更なる災害対策の必要性が明らかになりました。

千葉県においてもリハビリテーションに関わる専門職が協働して災害時の活動に当たる、**千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会**(Chiba Rehabilitation Assistance Team、通称：**C-RAT**)が昨年発足しました。今号では災害とリハビリテーションの関係、そして動き始めたC-RATの活動をご紹介します。



災害とリハビリテーションの関係とは？

災害時における医療支援といえば、DMAT（発生後いち早く現地入りし主に救急医療を担当するチーム）が有名ですが、リハビリテーションの専門職も重要な役割を担っています。

被災地ではそれまで行っていたリハビリテーション医療を守るだけでなく、災害によって生じた新たな問題にも対応しなければなりません。特に重要となるのは、**生活不活発病（廃用症候群）の予防**です。住居を失った被災者は避難所へ身を寄せることとなりますが、生活環境の大きな変化や精神的ダメージにより、「動くに動けない」状態となり、中にはずっと寝ているだけ、という生活になってしまう方もいます。このような状態が続いてしまうと、心身の機能が低下し、新たに介護が必要となってしまうたり、精神的な病気を発症することもあります。この生活不活発病を予防する為に、**避難所を訪問して、体操の指導といった予防的なリハビリテーションを行うほか、避難所のバリアを取り除き、活動しやすい環境の整備を行います。**

被災直後のリハビリテーションの役割

『大規模災害リハビリテーションマニュアル』より

- それまで行ってきたリハビリテーション医療を守る（被災した障害者への支援）
- 避難所などで生活不活発病（廃用症候群）の予防
- 新たに生じた各種障害への対応
- 異なった生活環境での機能低下に対する支援
- 生活機能の向上



また、被災した障害者への支援も必要となります。一般の避難所では生活が困難な方に対しては、福祉避難所（援助が必要な方を対象にケアを行う、バリアフリー化された避難所）への入所を勧めます。さらには、被災時の外傷や被災後に発症した疾患により、新たにリハビリテーションが必要になった方に対しても支援を行います。このように、災害時におけるリハビリテーションの役割は多岐に渡ります。そのため、災害発生時に素早く対応できるように、災害リハビリテーションの組織化が進められています。（P2へ続く）

災害に備えた組織づくり

東日本大震災の発生後、リハビリテーション支援関連10団体が合同で支援を行いました。その後、この組織は「**大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会**（Japan Rehabilitation Assistance Team、通称：**JRAT**）」と改称し、平時から災害リハビリテーション関係の事業を行っています。

災害の対策には平時からの準備が重要です。JRATではマニュアルの作成、災害発生時に人や物の手配を行う「コーディネーター」となる人材の育成や、都道府県ごとのネットワークの構築を推進し、災害に対する備えを進めています。

千葉県では、リハビリテーション関連職能団体の代表者、責任者と定期的に協議を行い、昨年9月に「**千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会**」（**C-RAT**）が発足しました。これにより、災害リハビリテーションに関する具体的な活動の第一歩を踏み出しました。

C-RAT構成団体

千葉県医師会

千葉県理学療法士会

千葉県作業療法士会

千葉県言語聴覚士会

千葉県看護協会

千葉県介護支援専門員協議会

千葉県リハビリテーション支援センター

千葉県リハビリテーション医学懇話会

千葉県回復期リハビリテーション連携の会

千葉県千葉リハビリテーションセンター

第1回研修会を開催しました

C-RATの活動の一環として、1月16日（土）に第1回千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会研修会を千葉市文化センター・アートホールにて開催しました。

前半は「**その時リハはどう動いたのか**」と題し、実際に災害の現場において支援に当たった方に御講演いただきました。国保旭中央病院の藤本幹雄先生からは、東日本大震災被災当時の旭市の様子のほか、被災地を視察して見聞きした状況をお話いただきました。また、茨城県理学療法士会の齊藤秀之会長からは、平成27年9月関東・東北豪雨で大きな被害を受けた茨城県常総市における活動について、発生直後から支援の終了まで最前線で取り組まれた経験をお話いただきました。

後半は「千葉県のこれからを考える」という題でC-RATの構成団体から代表者が登壇し、意見交換を行いました。当日は89名の参加があり「大変参考になった」「今後もこのような研修会を開催してほしい」といった感想をいただきました。



藤本先生の講演



齊藤会長の講演



C-RAT代表者との意見交換

今後、C-RATは、大規模災害時には、生活不活発病の予防に対する適切な対応を可能にすることで被災者の自立生活の再建、復興に資する支援供給を目指すとともに、平時から有効な支援を行うための活動の実現を図っていきます。

ご存知ですか？視能訓練士

視能訓練士は、乳幼児からお年寄りまで皆様の大切な眼の健康を守るお手伝いをする、国家資格を持った眼科領域の専門技術者です。

センターの視能訓練士は、眼科診療に係わる各種検査やロービジョン（低視力）の方へのリハビリ指導のほか、市町村の実施する3歳児健診などを行っています。

皆様も健康診断などで視力検査をした経験があると思いますが、視力検査といえば左の写真のように、「C」のマークの環が欠けている方向を答える検査が一般的です。しかし、このような検査を行うことが難しい方や乳幼児には右の写真のカードを用いて測定を行います。



この視力検査に使う「C」のマークは、正式には「ランドルト環」といい、離れたところから環の切れ目を答えてもらい視力を計るものです。1909年に制定された、全世界共通の視力検査用記号です。



テラーアキューイティーカード（TAC）

グレーのカードの片側に縞模様が印刷されたカードを使う検査です。無地の面より縞模様を好んで見る傾向があるという乳幼児や子どもの嗜好を利用し、どこまで細かい縞のカードを見るかで視力を判定します。

また、近視・遠視・乱視など屈折異常の検査においても、年齢や眼の状態に合わせて、瞳を拡げるための点眼薬を使用するなど、患者様に合わせた対応をしています。したがって、0歳からでも必要ならば眼鏡装用することができます。また、ロービジョンの方に対しては、適切な用具の使用を提案することで、サポートを行っています。



ロービジョンの方を支援する様々なグッズです。左下の黒いものは「野プレート」と言い紙や封筒などに重ねると、視野が狭い方でも読み書きする部分が分かりやすくなります。



書見台（しょけんだい）という傾けられる台を使うことで、姿勢を保持しながらルーペで文字を読む訓練が出来ます。

センターの眼科は現在、医師（非常勤）3名と、視能訓練士（常勤）2名で対応しています。見え方に関してお困りごとあれば、是非視能矯正科へ御相談ください。

第12回高次脳機能障害リハビリテーション講習会（ご報告）

平成28年1月24日（日）千葉市文化センターにおいて、第12回高次脳機能障害リハビリテーション講習会を開催しました。

講習会では、なやクリニック高次脳機能外来医師納谷敦夫先生に「高次脳機能障害を理解する～家族として精神科医として」と題して御講演いただきました。精神科医師として、脳損傷が原因の高次脳機能障害を分かりやすくご説明いただいたほか、当事者の家族として、今の生活を支えるデイケアの開設や、今後の生活を支えるグループホームについてもお話いただきました。当日は、当事者、その御家族、支援者等、160名を超える皆様にご参加いただきました。



第9回千葉県地域リハビリテーションフォーラム（ご報告）

平成28年1月16日（土）千葉市文化センターにおいて、「地域包括ケア構築に向けた地域リハの関わり」をテーマに第9回千葉県地域リハビリテーションフォーラムを開催しました。

超高齢化が進む中で、心身の状態が変化しても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムを構築していくことが重要な課題となっています。

今回は、県健康づくり支援課 岩崎美貴氏から「千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業～『これまで』と『これから』～」と、千葉大学予防医学センター近藤克則教授から「地域包括ケアとリハビリテーション 介護予防の視点から」という題で御講演いただきました。また、ポスターセッションにおいては各地域の日頃の活動等17演題が発表され、参加者同士で積極的に情報交換を行っていました。



近藤教授の講演



ポスターセッションの様相

センター案内図



車のご利用

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- ・JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分
- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分

無料送迎バスのご案内

平成26年8月1日改定

（センター⇄JR鎌取駅 循環運行）

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20 40
12	10 30 50	40
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13 33
12	03 23 43	33
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。